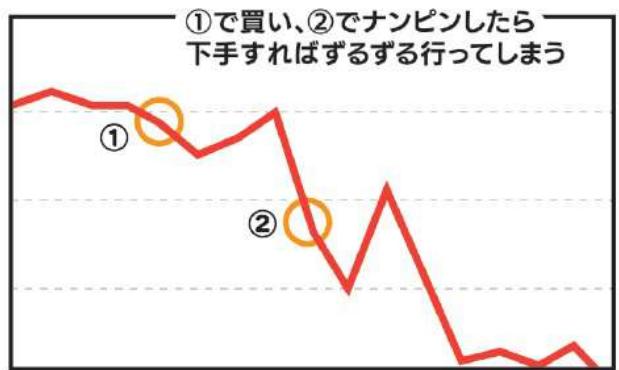


何年か前に付けた値段までは戻るだろうと思って買うというように、特に明確な根拠がない逆張りは、極論ただの妄想。僕自身逆張りを狙うことはあるが、すべて自分の経験からある程度勝算があって行うもので、それでもいつもうまくいくとは限らない。この原則から見ると、押し目買いやナンピンというのは、下がっているタイミングで買う逆張りになる。特にナンピンは初心者におすすめにはいけないリスクが大きい買い方だと思っていて、ナンピンをして反転を狙うよりは、すぐ損切りし、また上がり始めたタイミングでの買いなおしを狙うほうがリスクは小さくて済む。



02

売られていたものが、

自分が買ったたら上昇するなんて

都合のいいことは起らない。

フォースを

感じられれば

ほぼ負けはない。

03

フォースを期待できるタイミング

日銀によるETF配当金の再投資

海外指数への組み入れ

株価が大きく上がっているときに、年金、投資信託、海外ファンドなどの機関投資家による買いが主な要因になっていることがある。その手の取引では「この期間までにこれとこれを何百億円買う」という結論に従って買っているだけのようにはしか見えないものも多い。その手の取引のことを、何も見ずに買っているという意味で「盲目の資金」と呼んだり、大きな力が働いているという意味で「フォース」と呼んだりしている。日銀によるETF配当金の再投資や海外指数への組み入れなどのときもこうした買いが行われがち。こうした資金流入時には乗っかっているだけで大きく儲けることができる。また悪材料が出たときには一気に流出して大幅に下がることも多く、そういうときに僕は売り切った段階での買いを狙う。

値動きは順張り、 材料は逆張り。

市場の値動きや地合いには基本的に順張りだが、材料での上げ下げには逆張りで勝負することが多い。一番逆張りするのは、海外要因。たとえば、イギリスのEUからの離脱、北朝鮮のミサイル発射などの政治的なニュースを受け、企業価値と無関係に株価が下がっていると考えられるとき。大企業の子会社がちょっとした問題を起こして親会社の株価まで連動して下がっているときもそう。一時的な悪材料は売りを加速させるが、実際に親会社に入る収益には関係なく、わりとすぐに戻る。「雰囲気ですぐに売られすぎている」というような、企業の本質的な価値に関わらない材料による売りには、買いをぶつけて戻りを狙う。

14

材料でも逆張りしない場合

ゲーム株

(2019年まではどんな材料でも上がる傾向にあった)

政治的な話題

(要人の発言ではどちらに転ぶかわからない)

おっす おら損五億。

2006年1月に起こったライブドアショックでは、当時28億円くらいの資産のうち19億円を投じてリバウンドを狙った。堀江さんが逮捕されても会社自体がなくなるわけではないし、半値の300円台半ば（強制捜査前は700円弱）までは近いうちに戻るんじゃないかと踏んで100円台後半で1千万株買った。そこまで戻れば十数億の利益になる。ただ買ってからも下がり続け、これはいかんと思ってその日のうちに損切りを開始。損切りし終わった段階で「おっすおら損五億」と2ちゃんねるの掲示板に書き込みをして夜は麻雀に行った。それでも5億の損はあくまで「想定範囲内」。100円台前半にあったリバウンド狙いの買いがものすごく厚く、売れなくなる流動性リスクはなかったの、そこで売れば5億くらいの損で済むのは見えていた。ハイリスクとはいえ、リスクをわかった上で、勝負して負けたことに関しては冷静でいられる。それは僕の強み。

422 : 名無しさん@お金いっぱい。 : 06/01/26
おっすおらそんご
ですか

423 : 名無しさん@お金いっぱい。 : 06/01/26
おっすおら損5億

430 : 名無しさん@お金いっぱい。 : 06/01/26
オッス！おら損ごおっく！！

損した cisさんを煽る投稿。

21